

- 自然と人との共生をめざして -

公益財団法人 淡海環境保全財団

表紙写真：草津川堤防と水鏡

芽吹き季節到来！ヨシ苗の親木採取をしました

私たちの財団は別名「ヨシ財団」と呼ばれるほど、ヨシという植物に深く関わっています。

ヨシは世界中に広く分布していますが、日本では、古い書物で国の名前を「豊葦原(とよあしはら=豊かにヨシが生い茂っている原)」と呼び表したほど、ヨシ原は大切な原風景ともいえるべき存在です。

またヨシ原は同時に、水生生物や鳥たちのいのちを育む場でもあります。

当財団ではヨシ群落の保全のため、様々な活動や支援を行っていますが、今号では今まさにピークを迎えているヨシ苗づくりの様子をご紹介します。



ヨシの芽吹き

ヨシには、地域により遺伝子的な違いがあります。そこで当財団では、地域のヨシのDNAを荒らさないために、植えられる場所にできる限り近い場所で「親」とするヨシを刈り、それを「親木」として、生育、活着の良い丈夫な「挿し木苗」をつくっています。

また、その苗を育成する上では、財団が独自に発明した、短期に発芽・発根でき育苗の容易なヨシの増苗方法により行っています。

今年は、株式会社たねや様のご厚意により、「北之庄沢を守る会」様が管理されている美しいヨシ原で親木の採取をさせていただきます。

ご協力くださった皆さま、ありがとうございました。



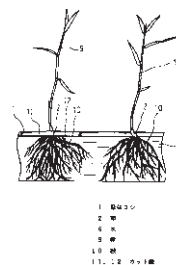
2艘の舟の上を歩いて島に渡ります。

【発明の名称】 ヨシの増苗方法

(57)【要約】

【目的】母体となるヨシ1を複数個の節2が存在するようにカットし、横方向に向けて水6に接触または浮かべ、複数個の節2から発芽と発根させ、次いで母体から各々の苗に分離した後、独立に育苗することにより、短期に発芽・発根でき、育苗の容易なヨシの増苗方法を提供する。

【構成】ヨシ1に複数個の節2が存在するように幹の根本部分と先端部分をカットし水槽の中に浮かべる。夏期1週間程度で複数の節2から発芽と発根し、夏期1月間程度で幹9の長さは約20~30cm程度となる。次に母体ヨシ1からカット線1,1,1,2で切断し、苗に独立分離し、樹脂製ポットに入れた腐葉土を含む土に植え込む。次に樹脂製ポットが水に浸漬するように配置し、各苗を独立に育苗する。この様に育苗すると約5月(スタートから約6月)で1m程度の幹の長さになり、自然界に植え込むことが可能な状態になる。



「ヨシの増苗方法」

特許公開公報(平成8年)より

雨足の強い5月の梅雨の中。舟の上を歩いて渡り、財団職員総勢12人が現地入り。ここは、大雨の中でもオオヨシキリが盛んにさえずり、水郷めぐりの舟からの観光案内の声がすぐそばで聞こえる、ほんとうに美しいヨシ原です。

ヨシ鎌は、よく見る草刈り鎌よりも数段大ぶりで、その分、事故につながりやすいため、取り扱い上の注意事項をしっかりと確認したうえで、作業開始。

太いヨシがよい親木になるとは一概に言えず、天候やその他条件により、まったく芽が出ない場合もあるとのことで、細い物も混ぜたりしながら、この日だけで6,000本(!!)もの親木を刈りました。

Index

- 1-2 表紙特集 芽吹き季節到来！ヨシ苗の親木採取をしました
- 2 「野洲のおっさん」びわ湖一周行脚 2021 出発式
- 3 その人に聞く たねやグループ 社会部 部長 小玉 恵さん
- 4 日本ヨシ紀行～ヨシの風景を訪ねて～ 霧多布湿原

- 4 滋賀県地球温暖化防止活動推進員リレートーク 松田 明子さん
- 5 高島浄化センターの汚泥たい肥プロジェクト進行中！
ベトナム・ハロン湾から～藤村長期派遣専門家からの便り～
- 6 おしらせ

ヨシ苗づくり作業の流れ



1 挿し木苗を作るための「親」ヨシを刈ります。



2 100本ずつ束ねて運び出します。



3 発芽発根をする節の部分を中心に、一定の長さにカットします。



4 財団のヨシ圃場※に運びます。

※圃場 (田んぼのような、水をはった苗の育成場所)



5 圃場の水の上に、重ならないように並べます。



6 出た芽を食べにくる鳥の対策のため、ネットとテープを張り巡らせます。



7 根と芽が出てきたら、節の部分を取り取ります。



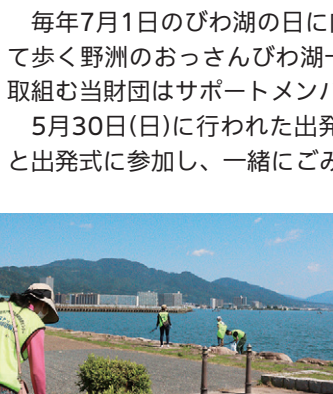
8 ポットに植え付けます。



ポット苗の完成!

9 育ったポット苗を4つずつ植え付けた「マット苗」は活着度が増します。

「野洲のおっさん」 びわ湖一周行脚 2021 出発式



毎年7月1日のびわ湖の日に向けて行われる、「7.1 びわ湖の日 伝えて歩く野洲のおっさんびわ湖一周行脚」。11周目の行脚となる今年も、琵琶湖の環境保全に幅広く取組む当財団はサポートメンバーに名を連ねています。

5月30日(日)に行われた出発式では、かけつけたサポート企業の皆さんや、多くの県民の皆さんと出発式に参加し、一緒にごみ拾いをして「野洲のおっさん」の旅立ちを見送りました。

出発式の様子や行脚の様、財団の紹介映像など、びわ湖放送の「知ったかぶりカイツブリにゅーす」で放送され、またYouTubeでいつでも見ることができるのでぜひご覧ください。

また、野洲のおっさんの最新情報や現在地など、「アミンチュプロジェクト」のサイトをご確認ください。



自然と人との共生をめざして

その人に 聞く

たねやグループ 社会部
部長 小玉 恵さん

たねやグループは創業来100年超もの間、和洋スイーツ製造販売事業に向き合いながら、美しい自然を守り次世代につなぐという信念のもと、女性が活躍する職場づくりなど、従来からあたり前のこととして持続可能性^{サステナビリティ}に取り組んで来られ、会社のSDGs宣言に結びついています。

そのたねやグループで、「社会のために生きる」という社命により、社内外の多種多様な場面で活躍されている小玉さん。稲がまっすぐに植えられた田んぼを見晴らせる、「ラ コリーナ近江八幡」内の本社屋でお話を伺いました。

— ヨシの親木採り(表紙特集参照)の場を設けていただき、本当にありがとうございました。学生や地域とともに、ヨシの取り組みをされていますが、きっかけを教えてください。

小玉さん 会社の新たな拠点としてこの地に来たら、目の前に「西の湖」がありました。手漕ぎ和舟が行き交う美しい所ですが、以前はもっと水がきれいだったと聞いています。

地域の方々と関わる中で、各集落ごとに継承されてきた数百種類もある美しい祭りの松明^{たいまつ}を、もっと多くの人に知って欲しいと思ったのがきっかけです。

2016年から、地域が守っておられるヨシ原で松明の材料としてヨシ刈りを始め、若い世代とともに松明づくりをしながら、ヨシの手仕事が次世代へ継承されるように働きかけています。お菓子を買いに来てくださる全国のお客様に松明を発信できるようになりました。



秋晴れのラ コリーナにそびえ立つヨシ松明

— 財団の水草たい肥を御社の農園で有償で使っただき、地域資源の循環にも貢献されています。

小玉さん 水草も循環ですが、原材料に水を使う企業として、水とそのリスクを常に考えています。滋賀は今は水に恵まれています。誰一人取り残さず、ゴールに向かってまだできていないことを考えて取り組む」という姿勢が、SDGsと共通しているという思いです。

— SDGsにかなり先進的に取り組まれているそうですね。

小玉さん はい、2017年にSDGs宣言をしています。

元々近江商人の考えがベースにあり、社員教育の中で、「誰一人取り残さず、ゴールに向かってまだできていないことを考えて取り組む」という姿勢が、SDGsと共通しているという思いです。

過去に全国津々浦々に根差した近江商人が、手を合わせ報告に来る社だったという日牟禮八幡宮。そのそばで創業し、近江商人の精神に倣い、自らに問いかけながら地域の方と商売を

やってきた影響ではないかと思っています。

— 自然と一体となったラ コリーナへの思いをお聞かせください。

小玉さん ご覧のとおりユニークな建物、敷地の中央に田んぼを据えています。

ここでのお米作りには従業員やその家族、地域の方も一緒に、お客様が買い物されているそばで田植えや草取り、刈取り、餅つきなどをします。

このように、自然の恵みにより原材料を手にすることができ、作るご苦労を知り、日々感謝する学びの場であり、お客様や地域とつながり、未来について語り合う場であると思っています。

また、ここにオフィスを置くことで、仕事をしながら田んぼの様子や、それをご覧になっているお客様の姿を見せて頂くことができ、襟を正しながら仕事ができています。

ラ コリーナ構想は始まったばかりで、これから5年先にもまだまだ完成しません。少しずつ、未来に向けて、今日表現したいことを進めているところです。ゴールも設けず、イメージは常に進化し続け、シンプルに自然との共生を進めていきます。



ラ コリーナのマップ。
無彩色の部分は、進化し続ける「新店舗予定地」。

— 自然と地域と共生しながら有機的に展開する企業の姿をお見せしました。更地からスタートして、植物や生き物たちが住まう里山を皆さんの手で作り出されたことに思いを馳せると、より深くラ コリーナを楽しめますね。

今後とも財団との事業連携をお願いします。



たねやグループ 小玉部長



順調に成長する稲を案内される小玉さん

日本 ヨシ紀行

ヨシの風景を訪ねて

第8回

きりたっぶしつげん 霧多布湿原

(北海道厚岸郡決中町)

霧多布湿原は、北海道東部の太平洋に面した琵琶瀬湾、浜中湾の海岸線に沿って広がる南北約9km、東西約3km、面積3,168ヘクタールの湿原です。湿原の主要部分と、湿原の西にある火散布沼と藻散布沼の474ヘクタール、合計2,504ヘクタールがラムサール条約湿地になっています。



霧多布湿原

霧多布はアイヌ語で「キータツプ」という発音で、「ヨシを刈る」というより、「草を刈るところ」という意味です。湿原の現況を見ると、「草」はほとんど「ヨシ」だったと思われます。



この地では、ヨシは産業利用されてきました。地元の人によると、昭和30年から40年頃、秋(10~11月)の昆布漁の際、海岸で収穫した昆



昆布干し

布を干すのに、ヨシを刈って下に敷いていたそうです。さらにヨシを編んだ風よけのようなものもあったということです。また、牛や馬の放牧が盛んで、湿原内のヨシの生えた中州で放牧し、ヨシの芽などを食べさせていたということです。

NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストは、かつてヨシ原であった民有地の牧地を、湿原の保全のため少しずつ購入しています。ちなみに、湿原全体で、3,168haのうち、民有地は、1,200haほどです。使っていない民有地を買い取り、保全されています。

写真・協力 NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト

滋賀県 地球温暖化防止 活動推進員 リレートーク

今回は、草津・栗東・守山・野洲地域の温暖化防止活動推進員さんをまとめられ、センターの事業のみならず、地域の温暖化防止活動に大きく貢献されているこの方です！

地球温暖化という言葉を知ったのは、中学2年の時でした。それから子育ての時を経て、気がつくとも問題は深刻になっていました。これは私たちが利便さを求めすぎたからと気がついたからには、みんなにも伝えたいと推進員に手を挙げてしまいました。何の知識も経験もないまま無謀でしたが、ただの〇〇ちゃんのお母さんが危機感を持っているというのが私のスタンスです。

そんな私が活動してこられたのは、周りの推進員さんたちのお陰です。同じ思いを持った人達であるだけでなく、知識は誰かが補ってくださる、声を掛け合い、一緒に考え励まし合う、啓発で子どもの何気ない言葉にともに喜べる推進員の仲間がいて、滋賀県センターがあります。これからもみんなで頑張っていけたらと思っています。



「子どもエコピンゴ」ステージを進行する松田さん



松田 明子さん
守山市在住

滋賀県地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、滋賀県知事より委嘱され、普及啓発活動を推進されています。

高島浄化センターの汚泥たい肥プロジェクト進行中!



高島浄化センターは、高島市内（高島処理区）の汚水を集め、きれいにして琵琶湖に放流している下水処理場です。汚水を処理する過程で発生する下水汚泥の処理方法として、昨年よりコンポスト化を行うプロジェクトを実施しています。財団では、この事業を推進、支援しています。

昨年度中にたい肥の試作と成分分析が完了し、このたい肥を使って栽培したコマツナの食味試験を、当財団職員および県職員（計24名）で行いました。肥料名を隠した4皿のコマツナの色、外観、臭い、食感、味について、5段階評価を行った結果、一番高い評価を受けたのはこのたい肥で育てたコマツナでした。



コマツナの食味試験

次のステップとして、今年度は利活用を進めています。このたい肥を利用して育てた近江富士花緑公園（野洲市）のネモフィラの花壇が、京都新聞で紹介されました。現在は地球市民の森（守山市）の樹木やびわ湖こどもの国（高島市）の花壇、湖西浄

化センター（大津市）のバラ園などで活用いただいております。どれも元気に生育しています。見頃を迎える頃、またご紹介したいと思います。



近江富士花緑公園のネモフィラ

今後、季節に合わせていろいろな野菜や植物に使用し、たい肥の有効性・安全性を確認していきます。

さらに、びわ湖の水草で作ったたい肥と混ぜた、「地域循環資源コンポスト」の製造試験も進めていきます。

新連載 スタート!



ベトナムのクアンニン省の要請を受け、JICA（国際協力機構）の専門家「グリーン成長政策アドバイザー」としてベトナムに赴任中の、当財団職員藤村アドバイザーの活動を紹介します。

ハロン湾地域は、1994年に世界自然遺産に登録されたハロン湾を中心とした観光業を含む経済発展が著しいところです。その半面、環境面でさまざまな課題を抱えており、特に沿岸地域の急激な開発等により、産業排水等による環境負荷が顕在化しています。

そこで同省はグリーン成長（注）政策を掲げ、環境負荷低減、低炭素型産業への移行を目指しています。

（注）グリーン成長とは、経済成長と環境保護を両立し自然の資源や環境を維持しつつ、経済成長・開発を促進し、その実現を目指す取り組みのこと



ハロン湾の風景



三日月知事と藤村さん(右)

3月29日、知事へ出発の挨拶。無事帰る、世の中を変える、ようにということで、信楽焼のかえりをいただきました。ベトナムに連れて行きます。



専門家として特別に海外渡航・入国が許可されている藤村さんですが、未だハロン市には入れず、ハノイ市で隔離期間～健康観察期間を送っています。（5月末現在）

着任後の活動については、次号以降でお届けします!

JR大津駅ホームの財団看板です!

ずらりと並ぶ滋賀の美しい風景写真の中に、「淡海環境保全財団」の看板があります。ぜひ探してみてください。



ご寄附をいただきました

三和産業株式会社様は、湖南省にある、ガードレールやフェンス等の基礎ブロック、防災かまどベンチなど、社会の安全安心を守るコンクリート製品を製造されている会社です。自然環境や生物多様性の保全にも社として熱心に取り組んでおられます。

今年も、公益目的事業全般にこのことで、寄附金を頂戴しました。



COOL CHOICEのポスター募集中!!

これ以上地球温暖化が進まないよう、暮らしの中で行う「COOL CHOICE (=賢い選択)」のポスターを、児童生徒の皆さんを対象に募集します。

- ・最優秀賞「滋賀県知事賞」
(副賞：5,000円の図書券・5,000円相当の賞品)
- ・特別賞「京セラ賞」「東京センチュリー賞」
「滋賀県地球温暖化防止活動推進センター長賞」
(副賞：3,000円の図書券・3,000円相当の賞品)

募集要領など、詳しくは財団ホームページでご確認ください。

応募締切
9月15日水



受賞作品を使用して
カレンダーを作成します。



昨年度の最優秀賞
滋賀県知事賞 受賞作品

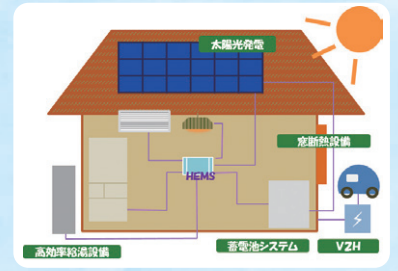
令和
3年度

スマート・エコハウス普及促進事業補助金の募集を行っています

家庭においてエネルギーを「減らす」「創る」「賢く使う」取り組みを総合的に広めるため、個人の既築住宅において、スマート・エコ製品を設置する場合、経費の一部を補助しています。



補助制度の詳細、申請様式は当財団ホームページよりご覧ください。
<https://www.ohmi.or.jp/ondanka/r02smart-eco/>



イベント情報

2021年 7月～8月

イベント名	開催日	時間	場所	内容
「しがCO ₂ ネットゼロ」ムーブメント 省エネキャンペーンイベント	7月3日(土)	10:00 ～ 17:00	イオンモール草津 1F セントラルコート	VRシアターやエコドライブシミュレーターなど楽しいツールを用いて、省エネ行動実践のきっかけを提供します。
自由研究講座(オンライン) 「エコな食事メニューを考えよう」 ～地球温暖化と食べ物～	7月下旬 配信	随時	動画配信	日々の食事や食べ物から地球温暖化問題を考え、親子で動画を見ながら旬でおいしく、かつエコな食事メニューを考えます。
自由研究講座(石山) 「環境に優しいお買い物」	7月26日(月)	10:00 ～ 11:00	平和堂石山店	日常の買い物を振り返り、ゲームを通して環境に優しい買い物について考えます。 事前申込不要の「ごみ分けゲーム」も開催。
自由研究講座(長浜) 「びわ湖の魚を調べよう」 ～地球温暖化とのつながり～	8月2日(月)	14:00 ～ 15:30	えきまちテラス長浜	びわ湖やそのまわりの川に棲む魚について学び、地球温暖化の影響について考えます。
下水道展'21大阪	8月17日(火) ～ 8月20日(金)	10:00 ～ 17:00	インテックス大阪	下水道に関する幅広い分野の最新技術や機器を展示する国内最大規模の展示会に、子どもの夏休みの自由研究にも役立つブースを出展します。

公益財団法人 淡海環境保全財団 「明日の淡海」

発行 公益財団法人 淡海環境保全財団 VOL.34 2021年7月発行 (年4回発行)
〒525-0066 滋賀県草津市矢橋町2108番地
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:info@ohmi.or.jp
【滋賀県地球温暖化防止活動推進センター】
TEL:077-569-5301 FAX:077-569-5304 E-mail:ondanka@ohmi.or.jp
【淡海環境プラザ】
TEL:077-569-5306 FAX:077-569-5334 E-mail:plaza@ohmi.or.jp



編集後記

今年は例年より3週間も早く梅雨入りし、これは統計史上最速だったということです。梅雨末期の大雨に警戒が必要です。「地先の安全マップ」等を活用し、日頃から「もしも」のときに備えておきましょう。

